

東洋合成工業株式会社

半導体向け感光材で世界シェアトップ

— 堅実経営とベンチャースピリットが共存

ここに注目!

精密精製技術に強み
時代が求める事業を見つける嗅覚

産業のコメとも言われる半導体。東洋合成工業は、半導体製造に欠かせない感光材で、世界シェアトップを握る日本を代表するグローバルニッチトップ企業だ。世界的なデジタル・トランスフォーメーション（DX）や自動運転への流れが加速するなかで、半導体の需要は急拡大するとみられている。同社にとっても当面はフォロワーの風が吹きそうだ。しかし、半導体市場は世界の巨大企業がプレーヤーに名を連ねる激戦区でもある。同社がそこでトップに居続けられるのは、常に新しい領域への種まきを怠らないベンチャースピリットが息づいているからだと言えそうだ。

蒸留精製技術を武器に事業領域を拡大

東洋合成工業は、日本が終戦の

混乱期からようやく落ち着きを取り戻した1954年に創業した。最初の飛躍は蒸留精製技術の獲得だった。創業者が日比谷図書館でドイツの化学雑誌に載っていた論文をもとに、自前で蒸留塔を設計し設備を作り上げた。今から見れば無謀な挑戦とも言えるものだが、当時、海上輸送の際、不純物が混入することが多かった化学原料をこの設備で蒸留精製すると品質が大幅に向上した。同社の蒸留精製技術は、復興に向かう日本が必須とする化学品を安定して供給することに大いに貢献した。その後、さらに輸入化学製品をタンクで貯蔵し、ユーザーが求める荷姿で関東一円ヘタイムリーに配達するサービスを始めた。高度経済成長期で物資がいくらでも欲しい時代だったことが功を奏した。この物流事業は今も安定的な収益を

上げる事業となっている。

そして1970年代になって、2度のオイルショックにより輸入化学品や重油の価格が跳ね上がり、売上が激減したことを機に、先手を打つ。半導体回路形成に使用されるフォトレジスト用感光性化合物の基礎研究に着手したのだ。当時は半導体の黎明（れいめい）期。「どうもこれから伸びるらしい」との情報はあったもののまだまだ未知の市場だった。大手化学メーカーも感光材事業にこぞって参入したが、水の中でも燃焼するというやっかいな性質があり、開発を断念する企業が相次いだ。東洋合成工業が事業化に成功したのは、蒸留精製で培った、材料を高純度に合成・精製する技術力と、「人がやらないならやってみよう」というチャレンジャースピリットが、研究者に根付いていたからだ。同



当社の位置づけ



研究開発部員の様子



千葉工場部員の様子



香料工場部員の様子

社の感光材は半導体が微細化するなかで、常に市場の最先端を歩み、成長を支える主力事業となっている。

電子材料や医薬分野での事業領域を拡大

東洋合成工業は、2023年3月期を目標とする中期経営計画「TGC300」で、同社が取り組む事業方針を策定した。「顧客課題、技術課題一つ一つを真摯に独創的な視点で解決し、超高品質と生産性を両立し、世界No.1ダントツ企業となる」という目標を掲

げた。半導体関連事業をさらに深掘りするとともに、新規事業へも乗り出していく。半導体は超微細加工が進み、線幅がナノ（10億分の1）メートルレベル、そこで使われる感光材には極限まで高純度な材料が求められる。この材料は半導体メーカーごとに仕様が異なる。同社は安定した多品種少量生産体制で、ユーザーニーズに応え、この分野での圧倒的な地位を堅持する戦略。同時に先端半導体向け超高純度溶剤分野においても市場シェア拡大を目指す。今後新領域として狙っているのが、電子

材料分野。分子を精密にコントロールすることで、求める機能があたかもレゴブロックのように自在に作り出せる技術を目指し、超精密電子デバイス向け材料の研究開発を進める。さらにバイオ分野や医薬品の中間体の研究開発などにも取り組んでいる。これら先端分野の研究開発では、複合的な研究開発が不可欠であるため、大学の研究室との共同研究や公的研究機関との連携も積極的に行っている。感光材にとどまらず、各領域でグローバルニッチトップを獲得するのが目標だ。

わが社を語る

代表取締役社長
木村 有仁氏



成果を挙げた人にはどんどん仕事を任せたい

創業から67年目と歴史は長く、経営は堅実ですが、社風はいまだにベンチャーの気風が残っている会社です。前例がない、他社がやっていないことでも、お客様が求めるなら「まずやってみよう」という気持ちを大切にしています。新卒で採用するのは大半が理系の人材ですが、全員にまず製造現場で半年から1年間研修を受けてもらいます。現場を経験することは、後に開発部署に配属された時にも量産実現に必ず役立つと考えているからです。特に安全教育は徹底して行います。当社

の事業はチームで成果を生み出すものがほとんどです。新しいことにチャレンジする気持ちとともに、メンバー同士がお互いの良さを生かしながら連携することに喜びを感じる人に向いていると思います。また、失敗を恐れず、主体的に仕事に取り組む人、そのなかで成果を挙げた人にはどんどん仕事を任せたいと考えています。仲間とともに自分が開発したもの、製造したものが世に出て社会の役に立つことを見ることで、自分の成長を実感できるはず

会社 DATA

本社所在地：東京都台東区浅草橋1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル
創業・設立：1954年9月（東証JASDAQ上場）
代表者：木村 有仁
従業員数：688名（2020年3月現在）
事業内容：感光材・化成製品製造販売、化学品物流事業
URL：https://www.toyogosei.co.jp/

